

FP まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

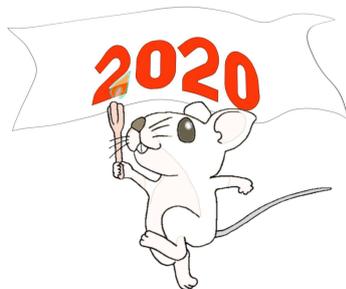
ご挨拶

新しい年を迎え穏やかに過ごしのことと思います。2020年が皆様にとってより良い年になるようお祈り申し上げます。

令和最初のお正月、皆さんはどのようにお過ごしになりましたか？

私は、年金などの社会保障制度が大きく変わっていくことが予想されるなか、今まで以上にタイムリーにお役に立てるご案内ができるよう決意を新たにしましたところです。

今年は東京オリンピックです。予算の問題や競技場の設計、マラソンの開催地の変更、などありましたが日本人選手の活躍に期待したいですね。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

金利には単利と複利の2種類があります。単利と複利ではお金の殖え方が大きく違ってきます。

家計の金融行動に関する世論調査から

昨年11月に金融広報中央委員会（事務局・日銀）が公表した「家計の金融行動に関する世論調査」から老後の生活資金について見てみます。
<https://www.shiruporuto.jp/public/data/survey/yoron/futari/2019/pdf/yoronf19.pdf>

老後の生活に対して「心配である」と回答した世帯は81.2%。前回調査の79.2%よりやや上昇しました。このあたりは老後資金2000万円問題が影響しているのかもしれませんが。

「心配である」理由としては以下を上げています。

	2018年	2019年
①年金や保険が十分でない	72.60	73.30
②十分な金融資産がない	69.00	69.70
③現在の生活にゆとりがなく準備をしていない	37.00	39.10
④退職一時金が十分でない	26.00	27.80
⑤物価が上昇すると考えられる	22.30	24.40
⑥子供からの援助が期待できない	18.00	17.40
⑦再就職などによる収入を見込めない	11.30	12.00

「家計の金融行動に関する世論調査」から一部抜粋

高齢化に伴い今までより長く働くことが今後一般的になってくることが予想されますが、同時に早いうちから少しづつでも準備をしておくことも必要かもしれませんね。



FP 松本相談センター
 ファイナンシャルアドバイザー
 媚山裕之

〒390-1702
 長野県松本市梓川梓856-26
 0263-76-1250
 090-8741-7358
info@fp-matsumoto.com
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの「悲惨な老後の実態」を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、「確定拠出年金」や「つみたてNISA」を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2019年10末	320,000	333,140	332,262	331,712
2019年11末	330,000	351,006	347,622	344,565
2019年12末	340,000	366,602	360,949	355,683

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

12月の株価は日米とも堅調でした。

	日経平均	NYダウ	ドル円
2018年末	20,014.77	23,327.46	
11月末	23,293.91	28,051.41	109.47
12月末	23,656.62	28,538.44	108.61
月間騰落率	1.56%	1.73%	
年間騰落率	18.19%	22.33%	

12月は月初下落して始まりましたがその後は、米中貿易交渉の第一段階合意報道などにより堅調に推移し日米とも高値圏で取引を終えました。

1年を通じて米中貿易問題に振り回されましたが、FRBによる3回の利下げ、堅調な米国企業業績を背景に、年初の悲観的な見通しに反し日米とも大幅に値上がりしました。

2020年は米国大統領選挙です。

世界最大の権力者を決める一大イベントです。新しい大統領のかじ取りが政治や経済にも大きな影響を与えます。

当然株価にも大きな影響を与えるので、

「選挙によって株価が・・・」
 「誰々が勝つと株価が・・・」
 「●●党が勝つと株価が・・・」

といったニュースを目にすることも多くなると思います。

今月は、そのようなニュースを目にしたときに長期の積立投資家はどのように考えれば良いか整理します。

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどにどう対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

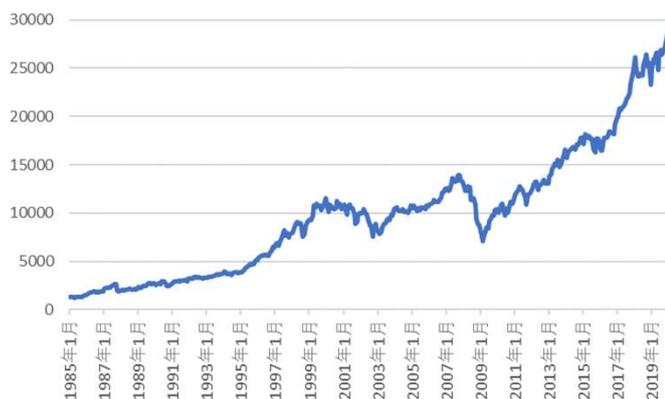
ニュース・イベントへの対応は投資スタンスによって異なる

短期の投資家の場合にはイベントやニュースに注意して上手に売買をする必要があります。

企業に厳しい政策をあげている候補者が勝ったら売り、企業活動を推進する政策をあげている候補者が勝ったら買い、など状況に応じて対応することが必要になります。

一方、長期の積立投資の場合はどうでしょうか？

こちらは1985年以降のNYダウ平均株価の推移と米国大統領です。



第40代	1981-1989	レーガン	共和党
第41代	1989-1993	ブッシュ	共和党
第42代	1993-2001	クリントン	民主党
第43代	2001-2009	ブッシュ	共和党
第44代	2009-2017	オバマ	民主党
第45代	2017-	トランプ	共和党

これを見てどのように感じますか？

日々小さな値動きがあり、時として大きな値下がりはあるものの右肩上がりをしている、と見えるのではないのでしょうか？

株式投資では株価に影響を与える様々な状況を予想して、良い商品を良いタイミングで売買することが必要と思われています。

ところがこのグラフを見る限り、誰が大統領になっても長い目で見れば、売り買いせずに継続することで十分に良い成果を得ることができていたことがわかります。

何故良いタイミングで売買しなくてよいのでしょうか？

それは株式会社そのものが環境の変化に対応し事業を成長させようとしているからです。

新しい大統領の政策が自社にとって不利な場合もあるかもしれませんが、だからと言って事業を諦めるわけではありません。企業はその環境の下、どのように事業を発展させるかを常に考え行動しているはずで

1985年のNYダウ平均は1300ドル程度でした。2019年末で約21倍に値上りしていることになります。これは企業が成長し、企業の経済的な価値が上がった結果によるものです。

大統領選などの大きなイベントは短期的には株価に影響を与えることは間違いありません。しかしながら長期投資では、時間の経過とともに企業が成長するのを待つ、という視点が大切になります。

ちょっと気になるお金のコラム

利子の起源

金利や利子は今では誰でもが一般的に使う言葉ですが、その起源はなんと紀元前3000年ごろのメソポタミア文明と言われていました。

農耕が始まっていたその時代、農民が有力者から種籾を借りて種をまき、収穫後に借りた分に上乗せをして返したのが利子の始まりと言われていました。

その金利も今や「ゼロ」。お金を殖やすのが難しい時代になってしまいました。

単利と複利

金利には単利と複利の2種類があります。単利とは利子が元本にだけつくもの。複利とは元本にはもちろん、利子にも利子がつくものです。

下表は100万円の元本を1%で運用した場合の「単利」の計算例です。

毎年の利子は何年たっても最初の元本の100万円に対しての1万円のみ、10年後の元利金の合計は110万円になります。

	元本	利子	利子合計	元利合計
1年後	1,000,000	10,000	10,000	1,010,000
2年後	1,000,000	10,000	20,000	1,020,000
3年後	1,000,000	10,000	30,000	1,030,000
4年後	1,000,000	10,000	40,000	1,040,000
5年後	1,000,000	10,000	50,000	1,050,000
6年後	1,000,000	10,000	60,000	1,060,000
7年後	1,000,000	10,000	70,000	1,070,000
8年後	1,000,000	10,000	80,000	1,080,000
9年後	1,000,000	10,000	90,000	1,090,000
10年後	1,000,000	10,000	100,000	1,100,000

これに対して右上の表は、同じく100万円を1%で運用した場合の「複利」の計算例です。

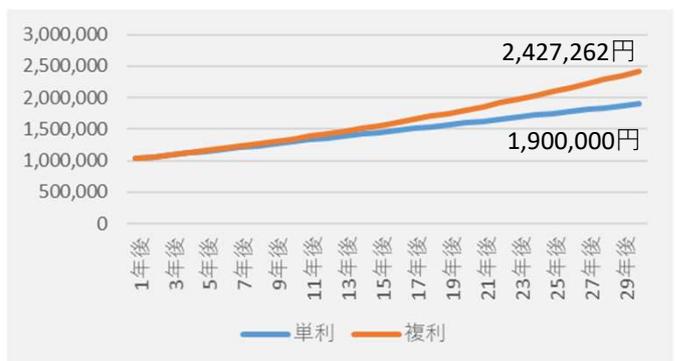
2年目には、100万円の元本に1年目の利子の1万円を加えた101万円に1%の利子がついてきます。

	元本	利子	利子合計	元利合計
1年後	1,000,000	10,000	10,000	1,010,000
2年後	1,010,000	10,100	20,100	1,020,100
3年後	1,020,100	10,201	30,301	1,030,301
4年後	1,030,301	10,303	40,604	1,040,604
5年後	1,040,604	10,406	51,010	1,051,010
6年後	1,051,010	10,510	61,520	1,061,520
7年後	1,061,520	10,615	72,135	1,072,135
8年後	1,072,135	10,721	82,857	1,082,857
9年後	1,082,857	10,829	93,685	1,093,685
10年後	1,093,685	10,937	104,622	1,104,622

このように利子が利子を生むことで、10年後の元利金の合計は単利の時に比べて4,622円多くなります。

単利と複利の差は、運用期間が長く、金利が高くなるほど大きくなります。

下図は金利3%、運用期間30年にした場合の違いを表したものです。利息を受取らずに元本に組み入れるだけで50万円もの違いが生まれるのは少し驚きですね。



有名な物理学者であるアインシュタインも「複利は人類最大の発明」と言ったと言われています。

将来に向けてお金の準備をするときにはこのようなことも意識して金融商品を選ぶとよいかもしれませんね。

お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎていないか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を申し上げます。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方 |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方 |
| | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

その他 {

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせフォームはこちら⇒
<https://fp-matsumoto.com/contact/>



 **FAX:050-3730-0380**



個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内